

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401134		
法人名	メディカル・ケア・サービス(株)		
事業所名	愛の家グループホーム千葉小倉		
所在地	千葉県若葉区小倉町1802-15		
自己評価作成日	平成24年1月4日	評価結果市町村受理日	平成24年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市若葉区園生町1107-7		
訪問調査日	平成24年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアの充実、傾聴の姿勢を保ち心身のケアに努めている。ご家族様・入居者様・スタッフが一体となって作りあげる行事等、明るい雰囲気の中で自立支援の向上を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人では経営する全国の介護事業所の入居者の家族を対象に、独自の満足度アンケートを実施している。今年度は当ホームが上位3位と評価され、更なるサービス向上に目標を設定し取り組んでいる。足浴を心と体のケアとして取り入れており、下肢機能の改善に役立っている。また、ターミナルケアについては、看取りの方針に沿って支援した実績がある。入居者が重度化して来た段階で、家族・医師・ホーム間での話し合いを充分に行い支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に沿い穏やかな生活、安心の確保・個々の支援を大切にしている。	法人の理念の基にホームの理念があり、ミーティングの際に唱和し確認している。ユニット毎に理念に向けての実践目標を掲げ、毎月見直しを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社会福祉協議会主催のいきいきサロンへの参加。近隣ホームとの交流を設けている。	毎月開催される「ふれあいいきいきサロン」を始めとする地域の行事に参加している。近隣グループホームと合同で餅つきをしたり、バザーに入居者の作品を出したり、中学生の体験学習受け入れやボランティアの来訪等、地域交流を重視している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	必要に応じて、関連事業所に連絡している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや入居者様・ご家族様を交え意見交換の場とし、サービスの質の向上を目指している。	運営推進会議は2カ月毎に開催している。地域包括支援センター職員と入居者家族が出席し、ホームの近況報告を中心に意見交換している。	出席者が固定化しているので、入居者家族、近隣住民、識者の参加を求め、ホームの地域貢献と災害時の協力関係の構築から会議の活性化を図ることを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主にホーム長・ケアマネが担っている。	運営推進会議に地域包括センター職員が出席している。市担当者とは随時連絡を取り合っており、関係性ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修・外部研修など通じて知識を得ている。又、ホーム長より指示を受け玄関の解放に努めている。	職員には内部研修で周知徹底に努めている。事務室等には拘束事例を掲示し、職員への注意喚起を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修・外部研修など通じて知識を得ている。スタッフの意識向上を図っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当者がおらず、学びの機会を設けていない。必要に応じて体制を整える必要あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主にホーム長・ケアマネが担っている。入居後はスタッフも含めご家族様との連携を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、ご家族様と意見交換をしている。ホーム内会議や運営推進会議などで報告・情報交換をしている。	入居者家族のホーム来訪時や行事参加時、年2回の「家族交流会」等で要望、意見を聞き、反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・全体会議が主となっている。	ホーム内の会議として、ユニット会議と全体会議を月1回行い、意見交換を行っている。職員等の個別事案は管理者が対応し、マネージャーや本部担当部と報告協議する体制が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々、職場環境の向上を視野に入れている。課題を明らかにし改善に向けホーム長より指導を受けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修・外部研修を設け参加している。スタッフ一人ひとりのケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事を通じ近隣ホームとの交流を設け、情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全スタッフが傾聴の姿勢を大切にしている。又、全スタッフが信頼関係の必要性を理解している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の面会時、全てのスタッフが入居者様の状況を伝えられるよう指導をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネからの情報をもとに、日々のケアから少しずつ必要な情報を加え相手の立場を考えケアに当たっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係が確立されており、互いに助け合いの精神が存在している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話報告・月1回の手紙報告など入居者様の状況を定期的にお知らせをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々のケアの中で馴染み深い場所へ出掛けることもある。又、友人の来訪も度々見られている。	入居者の家族や友人が気軽にホームに来られる雰囲気作りを心掛けており、馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、積極的な働きかけが見られる事もある。スタッフが間に入りきっかけ作りを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、主にホーム長やケアマネがその後の相談業務を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人・ご家族様両者の意向を尊重出来るよう努めている。	日々の関わりの中から入居者の希望や思いを読み取り、「個人記録」に記載して情報共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを元に、日々のコミュニケーションからさらなる情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察を徹底し御本人の様子の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・ユニット会議を通じて御本人のニーズを話し合い、ご家族様の要望と合わせながら検討している。	日頃から本人や家族の意向の把握に努めており、ユニット会議で話し合い、現状にそった介護計画を作成している。更に、職員が掴みきれない部分を家族に確認し、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録より情報収集をし、様々な支援を見いだすきっかけとなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況に合わせて柔軟な支援が提供できるようサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の生活に笑顔が取り入れられるよう地域資源の有効活用にも努めている。地域行事を通じて元気な生活を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診にて体調管理を行い、緊急時、早急な対応を心掛けている。	以前からのかかりつけ医には家族に対応してもらい、受診を支援している。月2回の協力医の往診と月4回の看護師による訪問で、入居者の健康管理を行っている。また、緊急時の連携も密である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回(週1回)の訪問看護にて健康状態の報告、助言を受けている。又、24時間体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いの際、看護師に様子を伺い入院中も利用者様の状態を把握し、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人様・ご家族様・主治医と話し合いを設けその人らしい生活を最期まで支援できるよう努めている。	看取りの指針があり、その方針に沿って支援した実績がある。入居者が重度化して来た段階で、家族・医師・ホーム間での話し合いを充分に行い、同意書も貰っている。職員も過去の経験を活かし取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの把握、勉強会を行い全スタッフが適切な対応ができるよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、緊急時の適切な対応を理解している。、スタッフで役割りを分担している。	年2回の消防訓練を実施しており、そのうち1回は夜間想定で行っている。東日本大震災の後、備蓄なども見直した。	今後は地域の協力を得られるような体制構築が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より言葉掛け・言葉づかいに注意し相手のプライバシーを損ねない対応を心掛けている。入居者様が過ごし易い居場所作りにも努めている。	一人ひとりの人格を尊重し、友達に話すような言葉遣いはしないようにしている。プライバシーについても配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に常に問いかけ、選択の機会を設けている。自身の思いを伝えられるようスタッフからの働きかけがある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営理念でもある“個々のケア”を大切にしている。必ず本人の意思が尊重される。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1度の訪問理容を受けられる方や自身の気に入った美容院へ行かれる方など様々である。毎日の身だしなみはスタッフの声掛けにより自身で行われる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理のお手伝いや後片づけなど積極的に行って下さる入居者様が多い。スタッフと共に無理のない範囲で行われる。	普段の食事は食材業者から取っているため、入居者の希望は外食等で対応している。月1回のファミリーレストランで外食や行事での食事会で変化をつけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をその都度記載し健康管理に努めている。必要に応じて医療機関と連携をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにより口腔ケアをして頂き口内の清潔保持に努めている。必要に応じて介助に入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、必要な介助にあたっている。自尊心を傷つけない声掛け・対応に努めている。	トイレでの排泄を大事にしており、排泄パターンを把握して、さりげない声かけ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取・適度な運動の必要性を全スタッフが理解している。水分摂取が少ない入居者様には好みの飲み物を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めていない。個人のペースや体調があるので臨機応変に対応できるように努めている。	基本は週3回であるが、希望があれば対応している。足浴を心と体のケアとして取り入れており、下肢機能の改善に役立っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペース・生活習慣を尊重している。穏やかな生活につなげるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診結果は全スタッフが把握している。処方変更の際には、その都度確認し服薬時には、スタッフ同志で声をかけ合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の支援ができるよう日常の中に取り入れている。ご家族様にも協力を仰ぎ、外出支援をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフとの外出・買い物・友人やご家族様との外出へ行かれたりと気分転換を図っている。本人の希望に沿った外出支援を心がけている。	個別で買い物に行ったり、地域の餅つき、フラダンス、バザーなどに出かけたり、季節に合わせて初詣、海岸ドライブ、イチゴ狩り等も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて対応している。御本人の意思を尊重し安心できるホーム作りに努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて外部との連絡のやりとりが出来るよう常に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に共有の空間の清潔保持は欠かせない。リビングや廊下には時期に合った飾り付けをし季節を感じて頂く。	明るく清潔な共用空間には畳敷きの部分があり、スロットマシンや琴など入居者の楽しみになるものを置いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日光浴が出来る場を設け心休まる時間を過ごして頂く。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、御本人が使い慣れたものや好みの物を置いて頂き、安心できる居室作りに努めている。	一人ひとりの好みに合わせて家具を配置している。入居時に環境の変化に不安を感じないように、馴染の家具や品を持ってきて貰っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故のないようスタッフの見守りを徹底しグループホームならではの自立支援に努めている。		